

世界地理

P2-6

1 (ア)(イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ)

(ア) 緯度0度の経線である赤道は、...

(ロ) 略地図Iにおいて、東京とロンドンまでの最長距離は、...

(イ) 学生の発言から、学生の住んでいる都市で会議が始まる本当の時間は、...

(ハ) 略地図IとグラフIから、都市はインドネシアにある熱帯の気候の都市であることがわかる。

(ニ) ブラジルでは、かつては輸出用のコーヒー豆の栽培が中心に行われてきたが、...

(ホ) 固定ブロードバンドを敷設するには、ケーブル網の整備など多額の費用がかかり、...

2 (ア)(イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ) (ヘ)

(ア) ロシアのサンクトペテルブルクから日本へ向かって西へ進んだことから、...

(イ) 日本は東経135度の経線を標準時子午線としている。経度15度ごとに1時間の時差が生じること、...

(ロ) 経度1度の本初子午線は、イギリスのロンドンやアフリカ州のアルジェリアやガナを通る。

(ハ) 略地図Iは経度20度ごとに経線が引かれていることから、aは1度の経線であることがわかる。

(ニ) 略地図IIのbは、ブラジル北部のアマゾン川河口付近を通過していることから、経度10度の緯線であることがわかる。

(ホ) 略地図IIIのcは、チリは世界最大の銅産国の産出国であり、日本にとって最大の銅製品の輸入相手国である。

(イ) 明治政府は、1869年、蝦夷地を北海道と改め、札幌に開拓使という役所を置いて開拓を進めた。

(ロ) 略地図Iより、真駒内泉一丁目には郵便局の地図記号があることから、...

(ハ) 略地図IIのdは、1/4分の1の縮尺であるため、地形図I上でcmの長さの実際の距離は、...

(ニ) 略地図IIIのeは、2万5千分の1の縮尺であるため、等高線は高さnごとに引かれている。

近世までの歴史

P12-16

1 (ア) (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ) (ヘ) (ト) (チ) (リ) (ニ) (ホ) (ヘ) (ト) (チ) (リ)

(ア) 資料I中の「倭の女王」「親魏倭王」から、弥生時代の邪馬台国の女王が、倭に使いを送った内容であると判断する。

(イ) 「平安京の遷都」という説明から、aは「天皇であることがわかる。また、天皇は、坂上田村麻呂を征夷大将軍として東北地方の蝦夷を討つため、bは「平安時代の930-40年代、飛鳥時代のごときとこと。」

(ロ) 略地図Iのcは、北条が定めた。武士の社会の慣習に基づいた法令である。女性が髪子を迎えることは、朝廷の定められた律令では認められていないが、武士の社会では致されなければならないほどであり、御成敗式目でも認められるということが書かれている。

(ハ) 略地図IIのdは、聖徳太子3代将軍足利である。資料のBは、聯合貿易の際に義満が明の皇帝に朝貢の形をとって送った国書である。は戦国時代の始まりとなる応仁の乱について述べている。また、義満の時代に北山文化が栄え、の船や茶の湯、連歌などが興隆した。の歌舞伎は江戸時代の文化。

(ニ) 略地図IIIのeは、秀吉は農民が一致団結し、資料Vのような一揆がおこるのを防ぐために、刀狩を行って農民から武器を奪った。その際、資料V中の「大仏御立の御、かすかひに御せ付けらるべし」とあるように、大仏をつくるための釘やかすがいに使うと説明されている。

(ホ) 略地図IVのfは、14世紀末から15世紀初め頃の日朝貿易について述べている。また、15世紀初めの琉球王国の地図について述べている。ともに、室町時代の様子である。

(ト) 略地図Vのgは、「米市」「米は感てやまをかきね」と、商業のさかんな都市についてであると判断する。資料Vは、江戸時代に「天下の台所」とよばれた大坂の様子について書かれたものである。大坂には、諸藩の蔵屋敷が並び、商業の中心地として栄えた。

(チ) 資料VIでは、農村の人口が140万人減っていること、その中には、出家したり、無僧人となったリ、江戸に出てきたりした人があることを述べている。また、資料VIIでは、「賤用金調書」「食料、農具代など並支」「御手当さる」から、農村に滞るお金や、帰ってからの生活費がない人には、資金をあたえる、ということを示している。

日本地理

P7-11

1 (ア) (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ) (ヘ) (ト) (チ) (リ) (ニ) (ホ) (ヘ) (ト) (チ) (リ)

(ア) 国内付加価値の金額は、輸出額×国内付加価値割合+100で求めることができる。日本よりも国内付加価値の金額が高い国は、中国、アメリカ合衆国、ドイツの3か国である。

(イ) 近年、日本を訪れる訪日外国人が増加し、日本人海外旅行者数も上回っている。訪日外国人の出身は、日本に近いアジア州の国や地域が多く、全体の8割以上を占めている。

(ロ) 地形図Iにおいて、特に指示がなければ上が北を示す。地形図中に示されているいくつかの標高を見てみると、西側の方が高く、東側の方が低いことがわかる。

(ハ) 略地図Iのaは、日本は自由貿易が始まると、日本はおもに毛織物や絹織物などを輸入し、...

(ニ) 略地図IIのbは、(イ)と(ロ)の地図記号が広がっていることがわかる。なお、(イ)の地図記号は(イ)の、(ロ)の地図記号は(ロ)である。

(ホ) 2万5千分の1の地形図では、等高線は高さnごとに引かれている。図で示した神社の北西に、標高を示す地点があることから判断しよう。

2 (ア) (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ) (ヘ) (ト) (チ) (リ) (ニ) (ホ) (ヘ) (ト) (チ) (リ)

(ア) 略地図Iより、日本の漁船は1980年に比べて2016年は五つの層層すべてで減少した。100トン以上の漁船は、(386+498)+(1450+2004)×100=...

(イ) 産業界は一般的に農林水産業などの第一次産業、鉱工業や建設業などの第二次産業、第一次産業、第二次産業に含まれない、サービス業などの第三次産業に分類できる。

(ロ) 略地図IIのbは、1909年、1917年、1949年、1952年頃、1641年へのできごと。十字軍の失敗などからカトリック教会の権威が低下して、ルターなどが宗教改革を始めた。一方、カトリック教会もイエズス会などを組織して布教に努め、日本にもキリスト教が伝わった。

(ハ) 略地図IIIのcは、江戸時代初期に行われていた貿易で、南蛮貿易同様、銀が主要な輸出品であった。また当時、貿易を制限していた中国産の生糸は、重要な輸入品であった。朱印船貿易では、海外に移住する日本人も多くあらわれ、東南アジアの各地に日本町ができた。

(ニ) 略地図IVのdは、武家諸法度などによって、幕府によって厳しく統制されていた。当主が死した場合は、後継ぎのない場合は断絶せられることもあった。初期のころには、幕府の死の直前に養子を取ること禁止していた。しかし、その結果浪人とよばれる行方不明の武士が増え、社会不安に陥ったこともあり、幕府の支配が安定してくると、次第に禁止が緩やかになった。

(ホ) 略地図Vのeは、1870年代後半に日本で経工業を中心とした産業革命がおこった。この輸入国であった日本は、産業の発展とともに、輸出が増加した。こうした背景には、初期に政府が保護となるような官営工場を設立して産業の発展をうながしたこと、さらに民間などに払い下げて民間化して利潤の追求を図ったことなどが挙げられる。また、グラフIは、金額が一定なAが、による収入、Bが、からの収入となる。

(ト) 略地図VIのfは、清が朝鮮の独立を認めると、清が日本に遼東半島、台湾、澎湖諸島を譲る。また日本に2億圓(約3億圓)の賠償金を支払うことなどが決められた。しかし当時、アヘンの輸出を進めていたロシアは、ドイツ、フランスをもとめて日本に遼東半島の返還を求めた(三国干渉)。対抗する方になかった日本はそれを受け入れた。その後、朝鮮や満州への進出をめぐって利益が衝突した日本とロシアの間で、日露戦争がおこった。

近世以降の歴史

P17-21

1 (ア) (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ) (ヘ) (ト) (チ) (リ) (ニ) (ホ) (ヘ) (ト) (チ) (リ)

(ア) 略地図Iはアメリカの大統領が日本に開国を要求した国書の一部である。この国書はペリーによって幕府に渡された。また、資料IIは日米和親条約の一部である。aは「支那人および支那人を除く人々、外邦を交易することを禁ずること」であることから、領土中交易を禁じられていた人々が、あてはまる。bは「通商口岸」について、資料IIより、「新水、食料、火薬の品」とあることから、当時の蒸気船を動かす燃料であったbは「石炭」について、cは「通商口岸」とあることから、日米和親条約で開港したbは「神戸」である。

(イ) 1870年代後半に日本で経工業を中心とした産業革命がおこった。この輸入国であった日本は、産業の発展とともに、輸出が増加した。こうした背景には、初期に政府が保護となるような官営工場を設立して産業の発展をうながしたこと、さらに民間などに払い下げて民間化して利潤の追求を図ったことなどが挙げられる。また、グラフIは、金額が一定なAが、による収入、Bが、からの収入となる。

(ロ) 略地図IIのbは、1870年代後半に日本で経工業を中心とした産業革命がおこった。この輸入国であった日本は、産業の発展とともに、輸出が増加した。こうした背景には、初期に政府が保護となるような官営工場を設立して産業の発展をうながしたこと、さらに民間などに払い下げて民間化して利潤の追求を図ったことなどが挙げられる。また、グラフIは、金額が一定なAが、による収入、Bが、からの収入となる。

(ハ) 略地図IIIのcは、江戸時代初期に行われていた貿易で、南蛮貿易同様、銀が主要な輸出品であった。また当時、貿易を制限していた中国産の生糸は、重要な輸入品であった。朱印船貿易では、海外に移住する日本人も多くあらわれ、東南アジアの各地に日本町ができた。

(ニ) 略地図IVのdは、武家諸法度などによって、幕府によって厳しく統制されていた。当主が死した場合は、後継ぎのない場合は断絶せられることもあった。初期のころには、幕府の死の直前に養子を取ること禁止していた。しかし、その結果浪人とよばれる行方不明の武士が増え、社会不安に陥ったこともあり、幕府の支配が安定してくると、次第に禁止が緩やかになった。

(ホ) 略地図Vのeは、1870年代後半に日本で経工業を中心とした産業革命がおこった。この輸入国であった日本は、産業の発展とともに、輸出が増加した。こうした背景には、初期に政府が保護となるような官営工場を設立して産業の発展をうながしたこと、さらに民間などに払い下げて民間化して利潤の追求を図ったことなどが挙げられる。また、グラフIは、金額が一定なAが、による収入、Bが、からの収入となる。

(ト) 略地図VIのfは、清が朝鮮の独立を認めると、清が日本に遼東半島、台湾、澎湖諸島を譲る。また日本に2億圓(約3億圓)の賠償金を支払うことなどが決められた。しかし当時、アヘンの輸出を進めていたロシアは、ドイツ、フランスをもとめて日本に遼東半島の返還を求めた(三国干渉)。対抗する方になかった日本はそれを受け入れた。その後、朝鮮や満州への進出をめぐって利益が衝突した日本とロシアの間で、日露戦争がおこった。

